

MRA上のJabberバージョン14での電話サービスフェールオーバーの動作

内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[コンフィギュレーション](#)

[トラブルシューティング](#)

[診断ログの収集](#)

[登録](#)

概要

このドキュメントでは、Mobile and Remote Access(MRA)経由で登録されたJabberの電話サービスに対して、バージョン14以降でSession Traversal Utilities for NAT(STUN)のキープアライブを追加した場合のフェールオーバーについて説明します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- Cisco Unified Communications Manager(CUCM)
- Cisco Expressway Core.
- Cisco Expressway Edge.
- Cisco Jabber for Windows.
- Cisco Jabber for Mac.
- Cisco Jabber for Android.
- Cisco Jabber for iOS.

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づいています。

- ExpresswayバージョンX14.0。
- CUCM 14.0.
- Cisco Jabberバージョン14.0

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています

。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

背景説明

x14.0より前のバージョンでは、MRAソリューションはJabberなどのソフトクライアントの電話サービスの自動フェールオーバーをサポートしていません。STUNキープアライブの導入により、関連するコンポーネントが必要な基準を満たしている限り、メインルートまたはサーバ自体が侵害または到達不能になった場合にJabberをセカンダリサーバに登録できるようになりました。

コンフィギュレーション

必要な設定は、ExpresswayサーバでSTUNキープアライブを有効にすることです。この機能はデフォルトで有効になっており、以前に無効になっている場合にのみ設定する必要があります。

ステップ1:Expressway-CのWebインターフェイスを開きます。

ステップ2:[Configuration] > [Unified Communications] > [Configuration] > [Advanced]に移動します。



ステップ3:Expressway-Cコマンドラインインターフェイス(CLI)を開きます。

ステップ4：次のコマンドxconfiguration SIP Advanced StunKeepAliveForRegisteredPathEnabledを実行します。on に設定します。

```
xconfiguration SIP Advanced StunKeepAliveForRegisteredPathEnabled: on
OK
```

注：デコードの問題を回避するには、コアサーバとエッジサーバの設定が一致している必要があります。

トラブルシューティング

この機能が有効であることを確認するには、登録シグナリングを分析する必要があります。

診断ログの収集

ステップ1: ExpresswayサーバのWebインターフェイスで、[Maintenance] > [Diagnostics] > [Diagnostic Logging]に移動します。

ステップ2: [Take tcpdump while logging]チェックボックスをオンにします。

ステップ3: Coreサーバとエッジサーバの両方で[Start new log]を選択します。

ステップ4: 標準のユーザ名とパスワードを使用してjabberクライアントのアカウントにログインし、電話サービスが登録されるまで待ちます。

ステップ5: コアサーバとエッジサーバの両方で[ログの停止]を選択します

ステップ6: すべてのExpresswayサーバで、ロード後に[ログの収集]と[ログのダウンロード]を選択します。

注: クラスタの場合は、ステップ6をセカンダリピアで繰り返す必要があります。

登録

バージョン14以降のjabberクライアントでは、ContactヘッダまたはSupportedヘッダに次のようにregisterメッセージにx-cisco-mra-ha=AR_SKタグが含まれて、STUNキープアライブがサポートされています。

```
SIPMSG: |REGISTER sip:cmpub01.rvalverd.local SIP/2.0 Via: SIP/2.0/TLS
172.16.84.136:58980;branch=z9hG4bK00003665 Call-ID: 00505696-779a0005-00001bba-
00007938@172.16.84.136 CSeq: 104 REGISTER Contact:
```

200 OKメッセージには、サーバーがサポートしていることを示すために、Supportedヘッダーにも同じ情報が含まれている必要があります。

```
SIPMSG: |SIP/2.0 200 OK Via: SIP/2.0/TLS
172.16.84.136:58980;branch=z9hG4bK00007e98;received=10.88.246.8;rport=58980;ingress-
zone=CollaborationEdgeZone Call-ID: 00505696-779a0005-00001bba-00007938@172.16.84.136 CSeq: 105
REGISTER Contact:
```

その後、Jabberは30秒ごとにSTUNキープアライブパケットをExpresswayサーバに送信し、パスの可用性を確認します。STUNキープアライブのタイムアウトは3秒で、応答がない場合、jabberはエッジノードがダウンしているの見なし、別のエッジサーバを介して登録フェールオーバーを実行します。

注: MRAクライアントは、アクティブコール中に登録フェールオーバーを試行しません。代わりに、コールが終了するまでフェールオーバーはキューイングされます。この場合、ダウンしたサーバが回復してもフェールオーバーが発生します。